教 育 委 員 会 会 議 次 第

令和２年７月２２日（木）１５：００
子ども図書館２階　大研修室

１　開　　会

２　案　　件

（１）議案

議案第１６号「北九州市社会教育委員の委嘱について」
（市民文化スポーツ局　生涯学習課長）

議案第１７号「北九州市奨学資金貸付審議会の委員の委嘱について」
（学事課長）

議案第１８号「北九州市いじめ問題専門委員会の委員の任命について」
（指導第二課長）

議案第１９号「北九州市立図書館協議会の委員の委嘱について」
（中央図書館庶務課長）

議案第２０号「北九州市子ども読書活動推進会議の委員の任命について」
（子ども図書館長）

議案第２１号「令和３年度に北九州市立高等学校で使用する教科用図書の採択について」
（指導第一課長）

議案第２２号「令和３年度に北九州市立特別支援学校及び同市立小・中学校特別支援学級で使用する教科用図書の採択について」
（特別支援教育課長）

議案第２３号「人事について」
（服務争訟担当課長）

（２）協議

協議①「令和３年度使用中学校教科用図書選定会議調査報告書について」
（指導第一課長）

３　閉　　会

教　育　委　員　会　（　定　例　会　）

１　開催年月日　　令和２年７月２２日（木）

２　開 催 時 間　　１５：００～１７：４０

３　開 催 場 所　　子ども図書館　大研修室（小倉北区城内４番１号）

４　出　席　者　　（教　育　長）田島 裕美
（教育委員）シャルマ 直美　平野 氏貞　大坪　靖直
津田　惠次郎　竹本　真実

５　事務局職員

教育次長	太田　清治
総務部長	松成　幹夫
教職員部長	福嶋　一也
学校支援部長	柏井　宏之
指導部長	古小路　忠生
学力・体力向上推進室長	金子　二康
総務課長	田中　真徳
企画調整課長	正平　徹二
教職員課長	宮基　章弘
服務争訟担当課長	上野　正彦
学事課長	仲道　裕一
指導第一課長	澤村　宏志
指導第二課長	中溝　直樹
特別支援教育課長	小西　友康
中央図書館庶務課長	山口　奈穂子
子ども図書館長	河村　信孝
市民文化スポーツ局生涯学習課長	佐藤　健治

６　書　　記

総務課庶務係長	増田　真二
総　務　課	事柴　佑斗

７　会議の次第　　別紙のとおり

教育委員会会議録（令和２年７月 22 日）

１　開　会
　　１５：００　田島教育長が開会を宣言

２　会議録署名委員の指名
　　田島教育長が会議録署名委員に、平野委員と津田委員を指名。

以下の案件を非公開にすることを議決
・議案第２３号「人事について」

３　案　件
（1）公開案件

議案第１６号「北九州市社会教育委員の委嘱について」

本議案の提案理由を市民文化スポーツ局・生涯学習課長が説明。
［提案理由要旨］
　北九州市社会教育委員について、委員の辞任に伴い、新たに後任の委員を委嘱するもの。

原 案 可 決

議案第１７号「北九州市奨学資金貸付審議会の委員の委嘱について」

本議案の提案理由を学事課長が説明。
［提案理由要旨］
　北九州市奨学資金貸付審議会について、委員の辞任に伴い、新たに後任の委員を委嘱するもの。

原 案 可 決

議案第１８号「北九州市いじめ問題専門委員会の委員の任命について」

本議案の提案理由を指導第二課長が説明。
［提案理由要旨］
　北九州市いじめ問題専門委員会について、委員の任期満了に伴い、新たに後任の委員を任命するもの。

原 案 可 決

議案第１９号「北九州市立図書館協議会の委員の委嘱について」

本議案の提案理由を中央図書館庶務課長が説明。
［提案理由要旨］
　北九州市図書館協議会について、委員の辞任に伴い、新たに後任の委員を任命するもの。

原 案 可 決

議案第２０号「北九州市子ども読書活動推進会議の委員の任命について」

本議案の提案理由を子ども図書館長が説明。
［提案理由要旨］
　北九州市子ども読書活動推進会議について、委員の辞任に伴い、新たに後任の委員を任命するもの。

シャルマ委員／北九州市子ども読書活動推進会議は第３期の委員の方と、北九州市立図書館協議会の委員の方で、複数重ねて委員をされている方がいるようだが、それについては、両方を理解いただくほうが北九州市の図書館運営、また子ども読書活動において有効であるという考えからなのかお尋ねする。

中央図書館庶務課長／私ども図書館協議会の委員の選出に関しては、先ほどの会議資料の中に添付しているとおり、社会教育や家庭教育の分野に精通しているかたの中から選ぶというふうに決まっており、それぞれの団体に、この要件にふさわしい方を推薦していただくよう依頼し、その後教育委員会会議に諮り、任命するという手順になっている。

　結果的に同じ方が重なっているということは、やはりそれぞれの団体において、この方がこの分野において適切な人材であろうと判断された結果だと思う。

　現に、子ども読書活動推進会議のほうで言えば、市民委員、図書館協議会のほうではどちらも公募委員が中に入っており、この場合は必然的に違う方が選出されてきているという状況があるのではないかと思っている。

平 野 委 員／女性の参画率の８６．７％については、もともと女性参画率が低かったことを受け、参画率を上げていこうという趣旨で始まったことだと思う。

　これはいろんな立場の人たちが入ることがよいとしているわけであり、今年の８６．７％というのは、決して褒められるものではないというふうに考えている。ぜひそういった観点も含め、今後の委員選任をお願いしたい。

原 案 可 決

議案第２１号、議案第２２号については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 6 項に基づき、大坪委員は、一時退席。

（大坪委員退席）

議案第２１号「令和３年度に北九州市立高等学校で使用する教科用図書の採択について」

指導第一課長が報告。
［報告要旨］以下の項目について報告。
令和３年度に北九州市立高等学校で使用する教科用図書について、採択を行うもの。

シャルマ委員／英語科の教科書についてお尋ねする。
北九州市立高校の生徒の中に、進学希望の生徒さんの割合が高くなっているということを聞いている。
そういう中で、生徒の就職の条件も併せた、大学入試に十分できる教科書についてお尋ねしたい。

高校担当指導主事／生徒の習熟の状況に適している教科書を選択し、使用することで、評価や科目に関する興味関心を失わせず、学力の向上を図ることができる。
また、各レッスンで入試によく出題されるトピックが扱われており、スモールステップで学習することで、より効果的な入試対策が可能と考えられる。

平 野 委 員／Ⅱの情報ビジネス課のところで、ビジネス実務というものを新たに教育課程に加えている。
それを加えることの目的・ねらいをまず教えていただきたい。
また、その中で、目的・ねらいに題したところで、今回実教出版を選定した理由を併せて伺いたい。

高校担当指導主事／就職試験や企業との今までの情報交換からビジネスの実務の現場における知識や技能が高校生に不足しているということが分かった。
そのため、就職はもとより、卒業後、ビジネスの現場において、即戦力として生徒が活躍できるようビジネス実務を必ず教育課程に加えることとした。
実教出版がどのような点で優れているかということについては、イラストや図を用いて、詳しくビジネスマナーやオフィスの業務等について、生徒が分かりやすく具体的に記述されている。
さらに、役割を決めたロールプレイングなど行うことによって、知識だけでなく、ビジネスの本番の場面において、実用的なビジネスマナーが身に付けられるようになると考えられる。

原 案 可 決

議案第２２号「令和３年度に北九州市立特別支援学校及び同市立小・中学校特別支援学級で使用する教科用図書の採択について」

特別支援教育課長が報告。
［報告要旨］以下の項目について報告。
令和３年度に北九州市立特別支援学校及び同市立小・中学校特別支援学級で使用する教科用図書の採択を行うもの。

平 野 委 員／一般図書に選定された場合は、必ずこの選定された図書は、各学校で、購入して揃えるということになるのか。

特別支援教育課長／教科書の採択は、各学校で子どもたちの実態に応じた１年間の教育指導計画を作成するため、各学校が子どもの実態に応じて適切な教科書を教科ごとに採択する。

これらを教育委員会のほうで審査し、翌年度の春に無償で配布する。

平 野 委 員／教科書の中から、その人その人に合ったものを無償で与えるということか。選定した中から、また学校ごとに、個人の力を見ながら選定するという理解でよいのか。

特別支援教育課長／そのとおりである。

シャルマ委員／特別支援学校高等部においては、様々な内容の教科書が、各学校において選ばれているようだが、この選ぶもとになるものがあるのか。限られた範囲の中から選ぶというよりも、まさに生徒の実態に応じた選定になっているのかお尋ねする。

特別支援教育課長／資料７の６９ページをお開きいただきたい。

小倉総合特別支援学校を例に、説明する。

小倉総合特別支援学校は、障害種において、肢体不自由部門と病弱部門と２部門があり、それぞれの部門の中に肢体不自由と病弱の障害はあるが、知的に遅れがない生徒が在籍している。

こういった生徒の教育関連については、先ほど市立高校でも説明があったが、一般の高等学校の教科書を使用して、学習をすることが可能な生徒である。

また、高等学校用選定教科書を採択することを基本としており、同等の教科書採択は八幡西特別支援学校でも行っている。

一方、知的障害のある生徒の教科書については、高等部では、一般図書一覧から、必ずしも採択しなくてもいいようになっている。

平 野 委 員／一般図書の採択の「採択と非採択」の割合を見ると、８割か９割方が採択されている状況である。

もし、これが毎年の状況で、同じように繰り返されているのであればこの採択、採用の審査自体が必要かどうかについても、一度検討する価値があるのではないかと思う。

文科省が、ある程度セレクションをかけているが、この審査で例えば３分の１に絞られるというようなことであれば、労力かけてやる意味、価値は大きいと思うが。

素人目の判断だが、９割方の本は採択され、かつ、先ほど私がお聞きしたように、障害の程度というのは千差万別なので、学校の現場でそれぞれがそれぞれ、児童生徒に適しているかどうかを個別にマッチングしながら教科書を採択するという前提であれば、また、この採用審査にものすごい労力がかかっているのであれば、そのバランスも考えた上で、選定・採択作業について、一考する余地があるのかもしれないと思った。これはまた専門家の方でまたご議論いただければと思う。

田島教育長／貴重な意見、感謝申し上げる。

原 案 可 決

協議①「令和３年度使用中学校教科用図書選定会議調査報告について」

本議案の提案理由を指導第一課長が説明。
［提案理由要旨］
　令和３年度に中学校で使用する教科用図書の選定会議について、報告を行い教育委員会として更に協議を行うもの。

１３種目について３つのグループに区切って説明。
第１グループ：国語、書写、地理、歴史
第２グループ：理科、生活、音楽、図画工作
第３グループ：家庭、保健、外国語、道徳

（国語科担当指導主事説明）

（国語科・書写担当指導主事説明）

（社会科担当指導主事（地理）説明）

（社会科担当指導主事（歴史）説明）

竹本委員／この国語科２年生の教科書を４社について、４者ともに、学ぶべき思考力・判断力・表現力・知識・技能について、各単元の学習にどのようにつながっていくのかというのが、手引きとなるような提起として巻頭部分にあり、これがとても分かりやすくて、学習につながりやすいなという印象を受けた。
　どの教科を取っても、とても「中学２年生」という子どもが理解しやすく工夫されているなというふうに感じた。これは巻頭部分に関する一例だが、他にも、生徒が学習を進める上で、見通しを持って主体的に学んでいくための工夫や、自分の考えを形成していくための、工夫されている点について、各発行者ごとに詳しく教えていただきたい。

国語科担当指導主事／「主体的に見通しを持って学び、自分の考えを形成する」ということについては、「主体的・対話的で深い学び」の視点からも、また予測困難なこれからの社会の中で、積極的に変化に向き合い、また、自分で考えて課題を解決する力を付けていくためにも大変重要なことと捉えており、考察の視点とした。
　各発行者とも、主体的な学びを通して、自分の考えを形成できるような工夫をしている。
　例えば、１の東京書籍については、「てびき」の部分に学習の流れを示し、学習課題を捉えて、主体的に学習を進めることができるように工夫をしている。
　また、２の三省堂については、「学びの道しるべ」で学習過程を示すとともに、段階を追って学習を進めることができ、自分の考えを形成できるようにしている。
　４の光村図書出版については、「学習」のページで、学習の見通しが掴めるような工夫がされており、教材を読み深めたあとに、話し合ったり、文章に書いたりして、自分の考えを形成していくような流れをつくっている。
　他の発行者においても、教材の後ろに学習活動の流れを提示するなど、主体的に学びながら、自分の考えの形成ができるような工夫をしている。

竹 本 委 員／国語科は、私自身好きなので、じっくりと読んだ時に QR コードがどの教科書にもある。これが、やはりすごく活用しやすくていいなというふうに感じて、実際に娘が「枕草子」を学習していた時に、「読み方が分からない」と聞いてきたことがあり、それが「秋は夕暮れ」のところで、「風の音（ね）、虫の音（ね）」なのか、「風の音（おと）、虫の音（ね）」なのかと聞かれて、私自身もうろ覚えで迷った時に、この QR コードで読み込めば、すぐにその正しい答えというのが分かった。また、随筆や短歌などの言葉の意味を理解するというところだけでなく、言葉を通じた表現であるとか、口に出した時の、その音の響きとか気持ちとか、そういうふうなものも楽しみの１つだと、そのように感じたので、本当にこの QR コードというのは、すごく有効だと実感した。

そういった意味で、まずは、日本語を正しく読んで理解することというのが、とても大事だと思うが、その上で、言葉による思考力を高めたり、判断力・表現力を高めるための工夫というのを、各社のほうで特に力を入れている点だとか、工夫されている点というのを教えていただきたい。

国語科担当指導主事／各社ともまず「QR コードの活用」というところで、ICT の活用につなげた学習のさらなる深まりを持てるよう、資料の提供をしている。

動画から、また画像から関連資料が見られるような工夫している。

また、国語科では「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」という各領域があるが、そのそれぞれの領域で、思考力や表現力を高められる工夫をしている。

例えば、１の東京書籍においては、「話すこと、聞くこと」の領域において、社会的で身近な話題、例えば「高齢者の運転」といったことをテーマにして、それについて考えを伝え合い、根拠を明確にして、自分の考えを伝えるという表現力を身に付けられるようにしている。

また、２の三省堂については、「読むこと」の領域において、「正確に文章を読み解くためのコツ」を「読み方を学ぼう」一覧などで示し、読むためのコツを身に付けるとともに、思考力を高められるようにしている。

また、４の光村図書出版においては、「書くこと」の領域において、職業ガイドを作成するという活動をとおして、情報を分類・整理したり、また図を使って、自分の思考を整理しながら表現をするといった、思考力や表現力を高められるような工夫をしている。

シャルマ委員／私は行書について、しっかりと考えたことがなかったが、どの教科書も「文字を正しく整えて速く書く」ことを目標とした行書の練習について、とても工夫されているというふうに感じている。

その各発行者の工夫について、教える立場、学ぶ立場から、特徴をさらに整理して教えていただきたい。

国語科・書写担当指導主事／今回、各社ともに、「日常生活にどう生かしていくか」というところをポイントに押さえている。

私たちの生活の中では、文字を書く際、メモを取ったりする場合は、１つ１つ楷書で書くということはない。

「では、速く書けばいいのか」というわけでもない。

読み返した時に、やはり読めるような文字を書くということが必要になってくる。

そのような場面を、各教科書で設定し、子どもたちが「実際、自分がこれをする時には楷書がいいかな、行書がいいかな」というところを考えて、その必要性、必然性を感じながら文字を書くというような教科書の構成になっている。

津 田 委 員／地理について伺う。

実際、各教科書を読ませていただいた時に、SDGs の記載や、QR コードを扱った記載など、最近の教科書はかなり工夫していると気付かせていただいた。

先ほど「選定にあたって」のほうに、視点について説明があったが、改めて、２点お聞きしたい。

１つは、適切な課題を設けて行う学習の実現のために、各発行者がどのような工夫を行ってきたのか、また同様に、生徒が多面的に、多角的に考察し、考えを深めるために、各発行者がどのような工夫をしているのか改めて伺いたい。

社会科担当指導主事（地理）／「適切な課題を設けて行う学習」について、このような、課題を追及したり解決したりする学習については、従来から、中学校社会科において、その充実が求められている。

各発行者とも、自主的・自発的な学びになるよう、単元や、１単位時間の学習の見通しや振り返り活動を提示している。

例えば、１の東京書籍では、単元全体を貫く「問い」である「探究課題」、また課題、その解決を補助する「問い」である「探究のステップ」、そして、１単位時間の学習のめあてである「学習課題」の３段階の問いを設定し、細かいステップで課題を解決していくことができるように構成している。

また、３の帝国書院は、章や節の問いといった、単元全体を貫く「問い」や「学習課題」を設け、生徒が問題解決的な学習の見通しを持つとともに、「確認しよう・説明しよう」や、「節の学習を振り返ろう」で学習を振り返ることができ、自主的・自発的な学習を促すことができるように配慮されている。

４の日本文教出版は、１単位時間ごとの「学習課題」と「見方・考え方」がしっかりと明記されており、何をどのように学ぶのかを明確にできるよう配慮されている。

他の発行者においても、１単位時間の問いを設定したり、学習したことをもとにした表現活動は設定している。

２つ目、「多面的・多角的に考察する」という点について、先ほど、説明でも確認していただいたように、１の東京書籍では「みんなでチャレンジ」、また、３の帝国書院では「節の学習を振り返ろう」、４の日本文教出版では「アクティビティ」、このようなところで、多面的・多角的に考察することができるよう、対話や振り返り活動を設定している。

また、適切な思考ツール等を紹介するなど、効果的に考えを深めることができるよう配慮されている。

平 野 委 員／歴史について質問する。

大変ボリュームが多いなというふうに思ったことと、ただ、その中でも、ビジュアルで大変印象付けられるような工夫を各社ともされているなと思った。読んでいて大変楽しくなる、勉強しようと思う工夫が随所にあるというのがよく分かった。

その中で、もちろん歴史というのは、いろんなことを覚えなきゃいけない部分があると思うが、歴史的なものの見方や考え方、これを働かせて、課題を設定したり追究したりという活動が大変大事になるんじゃないかと思う。

その辺について各社はどのような工夫をされているか伺いたい。

社会科担当指導主事（歴史）／「歴史的な見方・考え方を働かせた課題について」は、各社とも２つの工夫を行っていた。

１つ目が「見方・考え方を働かせる工夫」、２つ目が「課題追求の工夫」である。

東京書籍の２１２ページをご覧いただきたい。

「歴史的な見方・考え方を働かせる工夫」として、２１２ページの上部に「見方・考え方」というマークがある。

また、マークの上に、「推移」と書かれているキーワードがある。

こうしたマークの「推移」などの視点、それから、その視点を用いた考え方が示されており、生徒はこの視点をもとに、歴史的な事象について多面的・多角的に考えることができる。

また、東京書籍においては、２０７ページをご覧いただきたい。

「課題追求の工夫」として、単元を通して追求する問いである、単元を貫く「問い」を設定し、その下に、「探究のステップ」というところがあり、こうした章や節の「探求のステップ」として問いを設けている。

次に、帝国書院の１２ページをご覧いただきたい。

帝国書院は、「見方・考え方を働かせる工夫」として、巻頭に「見方・考え方とはどのようなものか」という説明をしている。

その上で、９３ページをご覧いただきたい。

単元を通して考えた課題について、単元末に「その章で働かせる見方・考え方」というものがある。

この見方・考え方を働かせて、課題追求を図るようにしている。

また、帝国書院においても「単元を貫く」という、そして、その解決に向けた「章・節」、毎時間の「学習課題」を設定している。

最後に、日本文教出版の１９０ページをご覧いただきたい。

日本文教出版も東京書籍と同様、「学習課題」の下に「見方・考え方」のマークが付いている。

この学習課題を、「比較」というキーワードをもとに解決していく。

そして、この日本文教出版の特徴としては、毎時間それを働かせているということである。

毎時間の学習課題のところに、見方・考え方が付いている。

そのため、子どもたちが、常に見方・考え方を働かせた学習ができる。

また、６５ページには、単元のめあてを、設定をしている。

日本文教出版においても、単元を貫く、ここでは「めあて」となっているが、「めあて」を毎時間の問いで解決していくような流れになっている。

平 野 委 員／承知した。

（社会科担当指導主事説明）

（数学担当指導主事説明）

（理科担当指導主事説明）

シャルマ委員／公民の教科書について伺いたい。

どの発行者も写真やイラスト、図示で、そのようなものが各所に散りばめられて、生徒の公民的分野に関する理解を促しているということを感じた次第である。

また、現在の新型コロナウイルスのことや、延期になったオリンピック・パラリンピック、また温暖化による気候変動など、私たちが今、世界的視野、地球規模で考えさせられる出来事や状況がある中で、SDGs という視点は非常に重要なものだと私自身思っている。

市民の意見の中にも、SDGs に関する記述が多く見られた。

その SDGs の視点について、各発行者の工夫されている点を説明いただきたい。

社会科担当指導主事（公民）／市民からも、SDGs に関する意見が多くあり、各社の内容を見ると随所に散りばめられている。

東京書籍については、まずは巻頭の１、２で「持続可能な社会の実現に向けて」ということ、これに関連して、環境・エネルギー・人権・平和・伝統文化などのキーワードをここで提示している。

３６ページをご覧いただきたい。

このページは「単元のまとめ」について記載しているが、このページの上部に伝統文化・人権・平和といった先ほどの説明と重なるキーワードがある。

学習活動としては、「オリンピック・パラリンピックが果たす役割について考えましょう」という形で、こういった、SDGs に関連した視点から、自分の考えをまとめてみようという活動がある。

続いて、２の教育出版について、先ほど説明した、ローマ数字のＩのページに、SDGs の「１７の目標」が提示している。

そこから、さらに右側に「つながりへの記述」というところがあり、こちらが、「個人と社会のつながり」ということを説明をしている。

その中で、各ページで、様々なつながり、SDGs の目標を掲載しており、その大切さを意識させる授業が展開可能なベースになっている。

続いて、３の帝国書院について、１９５ページをご覧いただきたい。

最初の資料だが、こちらで「１７の目標」を提示して、授業としてこれを１時間、しっかりと取り組めるといった構成になっている。

以上が、３社の SDGs の学習の特徴である。

シャルマ委員／承知した。

津 田 委 員／数学の教科書について、各説明があったが、各者が様々な工夫をしている一方で、本市の生徒の実態に合わない点について指摘があった。

例えば、話し合う活動や説明する活動、あるいは言語活動の回が少ないのは、生徒が自ら考え発見する場面が選びにくいといったことが挙げられた。

それを踏まえて、改めて２点、お聞きしたい。

数学的な見方・考え方を生徒が身に付けるため、工夫を各発行者がどのようにしているのか、また、思考力・判断力・表現力を育むための工夫を、各発行者がどのようにしているのか、改めて整理して教えていただきたい。

数学担当指導主事／見方・考え方については、４番の教育出版社をご覧いただきたい。

８ページ中に、具体的なイメージと、そして、どのような場面で、どのような使い方をしているのかといったところが、具体的に分かりやすく提示されている。

生徒はこのページを見て、どのような場面で、どのようにして考えを進めていけばよいのかといったところが、具体的に分かる内容になっている。

併せて、８６ページをご覧いただきたい。

教科書の中身についても、右側の帯状になっているところに、「数学的な考え方」というものが示されている。

ここにも、先ほどの８ページにあった内容と同様のものが載っている。

学習の中で、どういった数学的な考え方を働かせながら、問題に対して解決していけばよいのかといったところが分かりやすく、適所に記載がされている。

また、「数学的な見方・考え方の工夫」については、５番の啓林館の発行者も工夫の充実が見られる。

例えば、１０２ページ、１０３ページをご覧いただきたい。

１０２ページ、１０３ページの内容としては、この中の右下、１０３ページの虫眼鏡のマークが一番下に記載されている。

これは、啓林社の教科書の全てに、このような虫眼鏡のマークで、数学的な見方・考え方をどのような場面で、どのような考え方で進めればよいのか、具体的に生徒が分かりやすいように示している。

それだけではなく、上のキャラクター、黄色い、丸いキャラクターの部分により、どのような考え方で進めればよいのかといったヒントなどが示されている。

また、このヒントについては、子どもたちが具体的にイメージしやすいように工夫されている。

続いて、思考力・判断力・表現力等の言語活動の充実について１番の東京書籍の８５ページをご覧いただきたい。

一番下に「自分で考えてみよう」の左側に生徒の絵があり、その中身の吹き出しに、数学的な見方・考え方を働かせるためのヒントなどが書かれている。

併せて、８６ページもご覧いただきたい。

このページに、問題解決的な学習を進めながら、どのような考え方を働かせればよいのかという点について、吹き出しに工夫がなされている。

また、１０９ページには、虫眼鏡のマークがあり、数学的な見方・考え方について工夫の充実が図られている。

最後に、１１５ページをご覧いただきたい。

生徒が意欲的に考えを持って説明できるような言語活動の充実が、④番のところに入っている。

このように「説明してみよう」、または「話し合ってみよう」というところが、この「深い学び」のページの充実で図られている。

最後に５番、啓林館の１０２ページ、１０３ページをご覧いただきたい。

「話し合おう」、または「説明しよう」などの、赤い点線で囲まれた部分がある。

こうしたものが、各内容のまとまりごとに、各所に設定されている。

このような充実が分かりやすく、生徒にも教師にも分かりやすく設定されているところの工夫が見られる。

津 田 委 員／改めて、生徒がいろいろと考えて、教科書を読み込んでいく工夫がなされていることが分かった。

平 野 委 員／いわゆるこの生徒の育成に関しては、やはり自発的、能動的という部分を育成していかないといけないと思う。

自ら考え、自ら行動する、実践する、こういった癖づけをすることが、かなり大事な年代になるんではないかなというふうに思っているが、その中で、理科の過程においても、身近な自然の事物や現象から問題発見を行う、課題設定を行う、

そして、実験・観察を通して考察をしていくという探求の過程が分かりやすくなるような記載について、各教科書ではどのような工夫をされているか教えていただきたい。

理科担当指導主事／理科の学習は、自然の事物・現象から問題を発見し、その問題を解決していくために予想を立てたり、観察や実験を行ったりして検証していく。

そして、その検証結果から考えを深め、最初に発見した問題を解決していくような探求の過程が基本となる。

その中で、まず１の東京書籍は、学習内容が細かく節に分けられ、その節を数ページでまとめられている。

そして、その節ごとに、探求の過程が分かりやすく記載されている。

例えば、１６ページに、課題から実験、探求の過程が示されている。

また、２の大日本図書は、探求の過程である問題発見、予想、観察・実験、手順、結果や考察等を、見た目で分かりやすく表示することで、思考がスムーズに行われるような工夫がなされている。

また、５の啓林館の１３ページをご覧いただきたい。ここでは探求の過程を見開き２ページ以内にまとめることにより、生徒にも見やすく、分かりやすい記載となっている。

他の発行者においても、探求の過程の流れに示したページを、教科書の巻末、または巻頭部に掲示をしている。

平 野 委 員／併せて、生徒が関心を持って、自主的に学習をする、そういう姿勢で臨むために、何か工夫があれば教えていただきたい。

理科担当指導主事／各社とも、身近な事物・現象に関心を持てるような、様々な工夫がなされている。

例えば、大日本図書の１０ページ、１１ページをご覧いただきたい。

まず、生徒が自然の事物・現象に関心を持つというために、既習内容、これを、大きく表示しており、その下に、これから学習する内容を、記載をしている。

このことによって、系統立てた学習をすることにより、生徒は、前に習ったものから新しく習うものへとつながるような過程ができるため、興味関心が持てる内容になっている。

また、１４ページ、１５ページをご覧いただきたい。

身近な植物の写真等を掲載することにより、生徒がこれを見た時に「この近くに、この植物あったな」と興味関心が持てるような掲載になっている。

これは各社とも、様々な工夫がなされている。

平 野 委 員／大変カラフルな写真、それから絵、また、いろんな工夫がなされているのがよく分かった。

（保健体育科担当指導主事説明）

（英語科担当指導主事説明）

（道徳科担当指導主事説明）

津 田 委 員／保健体育について感想と質問を述べさせていただきたい。

保健体育については、テーマを現在社会が抱える様々な問題に対応できる能力としていたと思うが、教科書をいろいろ読ませていただき、SDGs 以外にも感染症などといった新しい課題、新しい内容が加えてあり、そしてそれが他の教科につながる、読んでいてそういった印象を受けた。

その中で質問だが、改めて現在社会が抱える様々な問題に対応できる能力を育てるための工夫、また、教科を横断した学習を実現するための工夫を各発行者がどのようにしているのか改めて説明いただきたい。

保健体育科担当指導主事／各発行者とも現在社会が抱える様々な問題に対応できる能力を育てるために、様々な工夫がなされており、中でも世界にある課題を世界で解決するための目標を表した SDGs について取り上げている。

具体的な例をとして、まず東京書籍の１０９ページをご覧いただきたい。

こちらのページでは、中学生のインターネット利用状況と依存傾向に関する調査の結果が示してあり、生徒がより身近な問題として考えられるように工夫がなされている。

３の大修館書店、こちらの９２ページをご覧いただきたい。

こちらのページでは、特集資料で「見直そうスマホの習慣」があり、より具体的な事例を挙げて問題解決的な学習を設定している。

最後に、４の学研教育みらいの１２０ページをご覧いただきたい。

こちらの「自然災害から身を守るために」という単元の中では、ハザードマップを示すと関連した資料が充実しており、身近に起こりうる問題を生徒に主体的に考えさせることができる内容となっている。

教科を横断した学習については、１番の東京書籍の１０ページをご覧いただきたい。

こちらは「食生活と健康」という小単元である。

こちらの単元は家庭科の「食生活と栄養」という単元との関連を図り指導することができる内容となっている。

続いて３の大修館書店の口絵７、８をご覧いただきたい。

こちらのページでは SDGs の特集が組まれており、持続可能な社会に向けて社会科との関連を図り指導することができる内容となっている。

最後に学研教育みらいの１４８ページをご覧いただきたい。

こちらでも、スポーツと SDGs の関わりについて記載されている。

それに関連した単元が充実しており、その単元から、道徳の総合理解また国際理解、国際貢献との関連が語られている。

シャルマ委員／「読む・書く」について、大人が受けてきた文法中心の英語学習から「聞く・話す」を積極的に取れ入れたコミュニケーション活動をたくさん取り入れたバランスのよい英語学習が展開されていることと思う。

そのように、やはり実際にコミュニケーションの中で使える英語力を育成するために、各社どのような工夫がなされているかお尋ねしたい。

英語科担当指導主事／主に、他者とのコミュニケーションを図る力の育成を重視している。

「目的・場面・状況・誰に・何を・何のために・どんな内容」といったことを踏まえて、各英語活動が充実している。

その場その場で、目的や場面・状況に合わせて、英語で表現できることは、中学生にとって深い学びであり、それを繰り返すことでコミュニケーションの力を高めることとなる。

具体的には、１の東京書籍は、目的や場面・状況が明確に言語活動が設定され、単元導入時には動画や絵などを活用し聞く・話す活動から、授業に入るように工夫されている。

２番の開隆堂は、全ての単元にイラストや写真などをもとに、その場で即興的なコミュニケーション活動のコーナーがあり、身の回りの場面から社会的な場面まで、段階を踏んだ話す活動が設定されている。

５の光村図書は、３年間を通じたストーリーになっており、日常的な場面の中で、どのように英語を表現するのか理解し、目標の達成を目指し、表現すべき内容や英語表現を工夫することで思考力を鑑み、表現力等を養うことができるようなものになっている。

竹 本 委 員／道徳に関して感想と質問をさせていただきたい。

７社拝見したが、どの発行者に対しても、共通して年齢にあった興味を描きやすい内容に掲載しているなと思った。

あと１つ１つの内容に関して、考えるテーマというのが、よく分かりやすく示されている点も子どもたちの学ぶ意欲につながりやすいのではないかと思う。

私としては、いじめ防止につながる命の教育というところは、今の教育の場において、力を入れて取り組んでほしいと思っている。この部分に関しても、各社それぞれに工夫を凝らしていて、どれも主体的に考えさせるだけでなく継続的に考えさせるという視点での構成になっているところが各社において特徴的だと感じた。

道徳科のこの４冊の概要として、考え議論する道徳、スタートに生徒が自己の生き方について考えを深めることが可能かどうか、そういった２つの視点においての各社の工夫している点を教えていただきたい。

道徳科担当指導主事／考え議論する道徳というのは、主体的・対話的・深い学び、アクティブラーニングの視点からも大変重要であると考えられている。

各発行者とも主体的な学びになるように、人ごとではなく、自分自身の生活の中で考えられるような、学び方、教材をカテゴリーにしている。

その中で、考え議論する内容が拡散しないように「今日はある程度どのような内容で話していきますよ」と示す必要がある。そのため「考えよう」「考えてみよう」といった発問が大部分である。

その中で、日本文教出版では、このような別冊のノートがあり「友だちの意見・話し合いをメモしよう」という内容が載っている教科書もある。

まず授業の中でしっかり「今日はこのテーマで考えていきますよ」というものがしっかり話合われた上で、生徒一人一人が、「自己の解き方」「人間としての生き方」について、考えを深めていくことにつながるので、その入口をしっかりしていくことが大事である。

報 告 終 了

（関係者以外退出）

（２）非公開案件

議案２３号「人事について」

本議案の提案理由を服務争訟担当課長が説明。
［提案理由要旨］
　地方公務員への信頼を著しく損ない、地方公務員法第３３条の信用失墜行為の禁止に違反する等の行為をした教職員に対し、同法第２９条の規定に基づき、相当の懲戒処分を行うもの。

原 案 可 決

４　閉　会
　　１７：４０　田島教育長が閉会を宣言